

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月6日(火)

《悪魔と戦う時は自分の力ではなくて、神様の助けを求めましょう》

面白い話をします。

道を通りかかった人が、1件の家のドアの前で小さな子どもが呼び鈴を押そうとしているのを見かけました。その子どもは背が小さくて、手を伸ばしても呼び鈴に届かずに困っているようです。そこでその人は、「私がやってあげよう。」と言いながら呼び鈴を押してあげました。すると、その途端に子どもは、「おじさん、ありがとう。おじさんのお陰で呼び鈴を鳴らせたから！今度は急いで逃げなくてはいけませんよ！」と言いながら逃げて行ってしまいました。その人は、呆気にとられて「何だ、これは。」と思いました。子どもは、いたずらをしようとしていただけなのです。これは、よく起こりそうな話です。私も子どもの頃、友達とよく呼び鈴を押すいたずらをしたのを憶えています。

とにかく、その人は「子どもを助けてあげよう」としたのです。よいことをしようとしたのに、自分でも気付かないうちに巻き込まれて、罪を犯してしまったのです。

私たちは、この世の中を生きる間に、この話のようによく悪魔にだまされることがあるのではないのでしょうか。悪魔は私たちとレベルが違います。“自分の能力で、悪魔と戦って勝つ”という傲慢な心は捨ててください。次元が違います。悪魔のいたずらは、本当に高次元です。能力と能力で悪魔と喧嘩をすれば、人間は100パーセント負けます。悪魔・悪霊は、いつでも人間が気付かないうちに誘惑をします。だから、人間は負けるのです。負けてから、「ああ、これが悪魔の誘惑だった。」と悟るのが私たちなのです。ですからイエス様が、「いつも目を覚まして祈りなさい。」とおっしゃっているのです。自分の頭をあまり信用しないでください。賢さを信用しないでください。負けます。絶対に負けます。負けない唯一の方法は、神様の力を得ることだと私は思います。

では、悪霊が一番人間にさせたいことは何でしょうか。今日の福音(マタイ9:32-38)にヒントがあります。“人間が当然することをできないようにすること”が、悪魔の一番大きいねらいではないのでしょうか。では、“当然すること”とは何でしょうか。たくさんあります。「助け合うこと」、「愛し合うこと」、「神様をたたえること」、「励まし合うこと」・・・。当然にしなければならぬし、それをしながら私達は生きがいを感じ、そして目的もできるはずですが、しかし、その“当然にするべきこと”をやめさせようとするのが悪魔のねらいです。私たちは、少し緊張しながらそういうことを意識し、それらに負けないように神さまに願うべきではないかと思えます。

次に『働き手』についてです。先週の説教の時には、「特別な召し出し」、特に「司祭とか修道者の召し出し」について強調しました。しかし違う観点から考えれば、『働き手』とは、「イエス様のみ言葉に接した全ての人」のことです。つまり私たちのことです。「『働き手』である私たちが、“当然するべきことをするように”イエス様に願ってください」という話です。「悪魔に負けないように守ってく

ださい」という願いが私たちに必要であることをイエス様がおっしゃっているのではないのでしょうか。皆様、私たちは、「するのが当然なのにできていない」ことがたくさんあると思います。それをできるように望まなければなりません。私たちがすべきこと、しなければ死んでしまうこと、それなのに忘れてしまっていることがあります。その結果、自分に与えられた幸せを奪われてしまっていないのでしょうか。そのような愚かなことがないように、健康な緊張の心で祈り求める姿勢が必要だと思います。

もう一回強調させていただきます。自分の能力をあまり信用しないでください。“その能力で悪魔と戦います”という高慢な考えは捨ててください。神様が助けをくださらなければ、私も、どんな聖人も、全部負けてしまいます。これが真理です。

ありがとうございました。